



いろいろな記念日の中で、

祝日を除くと、9月1日の防災の日はかなりの認知度になつてきた。例えば、6月1日の気象記念日や10月14日の鉄道記念日を知っている人は少ないと思う。防災の日は、阪神・淡路大震災以降、9月1日前後に大規模な防災訓練が多く行われるようになったため、広く知れ渡つたと思われる。

国や県、市町村の総合防災訓練や、企業、団体、学校、福祉施設などの避難訓練も多くなつてきた。訓練によって足りないことや間違いが分かると、それを改善することによって、より良い体制が構築される。従つて、防災訓練や避難訓練はハードルを少しず

今月のお題
もうすぐ防災の日

⑱

つでも上げながら、積み重ねることが大切である。

6年前の3月11日（東日本大震災）、わが家は停電で一夜を明かした。停電とともにテレビ・照明・ストーブがすぐに止まった。照明はランタンと懐中電灯で、地震と津波の情報は携帯ラジオで、暖房は反射式の石油ストーブを準備して何とかなつた。私は一通りの準備を終えてからはラジオのニュースにくぎ付け。息子が早めに帰つてきたので、車庫に入れた車から電源を引っ張つて、テレビとパソコンを使用できるようにした。夕食で助かつたのは、非常食のレスキューフーズであった。防災教室では度々

備蓄品の確認、増量を

食べることもあつたが、実際に家族で食べることになり、火や水を使わずにほっかほっかの食事ができ、孫たちからは牛丼が大好評だった。

防災の日が近づいたら、各ご家庭で次のことを実践してほしいと思う。
一つ目は、地震や火災の備え。地震対策として、高い所

て、古くなつたら入れ替える。
三つ目は、備蓄品の確認と増量である。備蓄には食料とグッズがあり、食料は3日分というのが一般的であるが、最近は一週間分がベストとされている。グッズは家族構成によつて変わるので、ある程度長い期間を置いて見直す必要がある。また、価格の高いものは少しずつ買いそろえる。わが家では、東日本大震災の後、丸型の石油ストーブとカセットガスによる発電機を備えた。

には極力物を置かない。倒れる可能性のあるものは、金具などを使って固定する。また、火災の備えとして火災警報器を設置しよう。

これからの台風シーズンの備えとしても、非常持ち出し袋と備蓄はぜひ準備しよう。今からでも遅くはありません。あなたの大切な家族のためにも。

二つ目は、非常持ち出し袋の準備、中身の確認と入れ替えである。季節はこれから秋冬へと向かうので、生活グッズなどは暖候期から寒候期用に入れ替える。もちろん食料は賞味期限の確認をし

（工藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住）
※次回は9月19日に掲載予定。



筆者宅の物置に準備している非常用備蓄の一部